

令和2年度 公開講座（短期課程）

担当科名	機械システム系メカトロニクス科
担当者名	山口俊憲
講座名	中小企業のための生産改善・革新セミナー（2）生産管理 ～3S・標準化・工程分析・稼働分析・動作改善・原価管理～
実施日時	① 令和2年6月17日（水） 18：00～21：00
	② 令和2年6月24日（水） 18：00～21：00
	③ 令和2年7月 1日（水） 18：00～21：00
	④ 令和2年7月 8日（水） 18：00～21：00
	⑤ 令和2年7月15日（水） 18：00～21：00
	⑥ 令和2年7月22日（水） 18：00～21：00
	⑦ 令和2年7月29日（水） 18：00～21：00 （計21時間）
募集定員	6人（申込者多数の場合最大10名程度まで）
募 集 対 象	対象職種：不問（講座名がものづくりになっておりますが、事務系・技術系を問わず様々な業種・職種の方が参加可能です。）
	受講に必要なレベル：不問（受講生の状況・希望に応じて内容を調整）
注 意 点	中小企業のための生産改善・革新セミナー(1)～(6)は企業などとの連携を通じて実際に現場改善に取り組む同一講師が全て担当しています。講座(1)～(6)の全てを受講することで、ものづくり改善に必要な知識を体系的に習得できますが、各講座を一つずつ受講しても理解できるような工夫をしています。例年、一つの講座を受講される方、全て受講される方、数年かけて全てを受講される方がいらっしゃいます。また、このセミナーは主に社会人を対象とした1年課程の「産業技術専攻科ものづくり改善コース」と一部連携しています。産業技術専攻科では、この講座を担当する講師と実際に現場の改善に取り組み、リードタイム短縮、残業時間削減、不良率低減、安全性向上を実現しています。 産業技術専攻科の活用 もご検討ください
講 座 内 容	様々な企業などから生産計画通りに生産するにはどうすればよいかとの相談を受けます。計画通り生産するためには3Sと標準化などが基盤となります。 生産性・品質・安全性を向上するためには、現場から管理者まで様々なレベルにわたる人員の生産管理への理解、改善手法の習得、ものづくりに対する意識の変革が必要となります。本講座では、生産方式（セル生産、ライン生産など）の違い、現場の状況を把握するための工程分析、稼働分析の活用方法、ものづくりを行なう上で基盤となる3S（整理・整頓・清掃）・標準化・見える化の必要性とその進め方、動作改善、原価管理について学び、受講者の方が勤務する工場での問題点の把握や改善の方向性について具体的な検討を行ないます。講座は座学形式だけでなく、模擬生産ラインの分析・改善を行なうことを通して体験的に学ぶ構成になっています。また、本講座の担当講師が共同研究や過去の講座などを通して製造業で取り組んだ改善事例を紹介します。
目 標	現場において生産管理の手法を活用できる。また、手法活用の指導ができる。

履修項目	①生産とは何か、生産管理の視点から考える ②生産方式への理解、セル生産とライン生産 ③3S、見える化、標準化、小ロット化 ④工程分析、稼働分析、工程改善 ⑤動作改善 ⑥原価管理、原価計算、改善効果のコストへの反映 ⑦模擬生産ラインを用いた実習 ⑧インダストリー4.0、IoT、ICT の製造現場での活用 ⑨事例紹介					
使用装置 ソフト・ 図書等	特になし					
受講費用	受講料：8,700円（21時間コース）					
	自己負担：	円（テキスト：	円・材料費：	円）		
講座費用	報償費	円	印刷製本費	円	材料費	円
	費用弁償	円	消耗品費	円	通信運搬費	円
	普通旅費	円	使用賃借料	円		
その他	<p>○ 単位互換について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業のための生産改善・革新セミナーの(1)品質管理、(2)生産管理の2つを受講することで、機械システム系の生産工学への出席を免除する。但し、試験やレポートの提出を求める場合がある。 ・ この講座を受講することで、産業技術専攻科ものづくり改善コースの「生産管理」の受講を一部免除する。 <p>○ 講師と講座について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業のための生産改善・革新セミナーを担当する講師は大学・大学院で経営工学を専攻し、その後10年以上にわたり企業の生産現場などの改善に取り組んできています。 ・ このセミナーは社会環境の変化や講師が生産改善に取り組んだ成果などに基づき数年に一度大きな変更を加えながら10年以上開講し、これまで延べ700人近くの方が受講しています。 <p>*例年、定員を超える申し込みを頂いているため、最大受け入れ人数を10名とした。</p>					